

国際共同研究シリーズ7

第3回アジア太平洋安全保障ワークショップ

アジア太平洋諸国の 安全保障上の課題と 国防部門への影響

防衛省防衛研究所

平成24年11月

目次

まえがき	1
片原栄一	
第1章	3
インドネシアの2012年の安全保障展望と国防政策	
リザール・スクマ	
はじめに	3
1 インドネシアの安全保障課題	4
2 国防部門の発展——継続的改善	14
3 対外協力とイニシアティブ	19
第2章	23
マレーシアの戦略的課題への展望と対応	
タン・シュー・ムン	
1 マレーシアの戦略展望	23
2 南シナ海——その底に潜む危険	24
3 米国の「ピボット」戦略の戦略的含意	25
4 中国の軍事力拡大への対処	29
結論	33
第3章	35
2011年のフィリピンの安全保障状況——国内に脆弱性を抱えたまま、 対外防衛における(巨大な)穴を埋める	
ハーマン・クラフト	
1 対外安全保障	36
2 国内の治安問題	42
3 2012年の国防に関する見通し	45

第4章.....49

2011年のシンガポール — 不確実性の中での安全保障強化

ラム・ベン・ア

1 安全保障の展望 — 現実主義者の「厳正な真実」パラダイム 50
2 シンガポールとマレーシアとの関係 — 鉄道用地と水資源 54
3 戦略地政学上の不確定要素 — シンガポールの戦略的対応 55
4 二国間及び多国間協力 — 外交と安全保障 58
まとめ — ポスト・リー・クアンユー時代と「厳正な真実」..... 59

第5章.....63

**タイの安全保障展望 — 隣国関係、国内問題、非伝統的問題、
地理的・地域的観点**

ティティナン・ボンスヒラ

はじめに 63
1 隣国関係 — カンボジア 64
2 隣国関係 — ミャンマー 67
3 国内問題 — 南部の騒乱..... 70
4 非伝統的問題 — 洪水..... 71
5 地理的・地域的観点 — 米中の中で 72
6 国防部門への含意..... 73

第6章.....75

ベトナムの安全保障展望

カーライル・セイヤー

はじめに 75
1 ベトナムが直面する安全保障上の課題..... 76
2 国防部門への影響..... 88
3 地域協力の展望 92

第7章	95
ミャンマーの安全保障展望と国軍	
テイン・モン・モン・タン	
はじめに — 選挙による文民政府と政治における軍	95
1 大統領主導の改革	97
2 軍における指導者交代	98
3 ミャンマー国軍と国家安全保障	99
4 国内の安全保障課題 — 紛争から平和へ?	102
5 密売その他の麻薬問題	105
6 国際安全保障問題	106
7 北朝鮮との関係	107
結論	108
第8章	111
モンゴルの安全保障における喫緊の課題	
— 国防部門および地域協力との関連性	
マシバト・オトゴンバヤル・サルラグタイ	
はじめに	111
1 モンゴルが直面する安全保障上の課題	113
2 国防部門への影響	117
3 北東アジアの防衛協力に関する将来の見通し	121
結論	122
第9章	127
米国とアジア太平洋 — 課題と機会	
サトウ・リメイエ	
はじめに	127
1 アジア太平洋へのピボット (pivot) とリバランス (rebalancing) の維持	128
2 安全保障メカニズムの管理	129
3 アジアの「再編成 (Re-mapping)」	130
4 国防部門への影響	131
5 地域協力に向けた展望	133
結論	135

第10章	137
2011年中国の安全保障	
浅野亮	
2011年の特徴	137
長期的背景：中国の台頭	142
第11章	147
2011年の日本の安全保障展望——より「動的」な防衛力を目指して	
佐竹知彦	
はじめに	147
1 2011年における日本の安全保障問題	148
2 日本の防衛に対する影響	156
まとめ	162
執筆者紹介	165

まえがき

本報告書は、2012年1月17～18日に防衛研究所が主催した第3回「アジア太平洋安全保障ワークショップ」の成果である。本ワークショップは、2009年度まで行われてきた「東南アジア諸国との防衛研究交流」を発展的に継承し、その対象をアジア太平洋地域に広げたものがある。域内から著名な安全保障専門家を招き、「アジア太平洋諸国の安全保障上の課題と国防部門への影響」をテーマとして、担当国の安全保障環境認識、国防政策、戦力構成、装備調達への影響、そして地域安全保障協力への含意や将来展望について活発な報告・討論を行った。その成果を「国際共同研究シリーズ」として刊行する。

近年、アジア太平洋地域にはアジア太平洋経済協力(APEC)、ASEAN地域フォーラム(ARF)、東アジア首脳会議(EAS)、拡大ASEAN国防相会合(ADMMプラス)といった地域枠組みの構築において顕著な進展が見られる。しかし欧州と異なり、この地域は包括的な安全保障アーキテクチャを欠いている。またこの地域には伝統的な安全保障問題が残存する一方、テロや大規模自然災害、感染症といった非伝統的な安全保障上の課題についても関心が高まっている。本報告書を通じて、各国を取り巻く安全保障環境や直面する重要課題についての知見が共有され、我が国を含むアジア太平洋諸国間の相互理解が促進されるとともに、研究所間のネットワーク構築に資することを期待する。

各章の執筆者はリザール・スクマ(インドネシア担当)、タン・シュー・ムン(マレーシア担当)、ハーマン・クラフト(フィリピン担当)、ラム・ペン・ア(シンガポール担当)、ティティナン・ボンスヒラ(タイ担当)、カーライル・セイヤー(ベトナム担当)、ティン・モン・モン・タン(ミャンマー担当)、マシバト・オトゴンバヤール・サルラグタイ(モンゴル担当)、サトゥ・リメイエ(米国担当)、浅野亮(中国担当)、佐竹知彦(日本担当)である(敬称略)。なお、ここに表明されている見解はすべて執筆者個人のものであり、防衛研究所ないしは執筆者が所属する機関の見解を代表するものではない。

2 アジア太平洋諸国の安全保障上の課題と国防部門への影響

最後に、本ワークショップに参加され、報告書の作成にご尽力いただいた執筆者各位、並びに本ワークショップの企画・運営に真摯に取り組まれた関係各位に対し心から感謝申し上げます。

平成 24 年 11 月
防衛研究所地域研究部長
片原 栄一